

「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

1 / 2

団 体 名	NPO法人 歴史文化研究所		
事 業 名	高校生のための観光イベントリーダー養成講座		
実 施 期 間	2019年 8月3日・4日開講		
事業の目的及び期待する効果	<p>●観光イベントを支える次世代（高校生）のイベントリーダーを育成することが目的。</p> <p>小樽観光はこれまで市民組織が中心となって立ち上がり数々のイベントを創出してきた。これらを支えてきたのは主催する市民団体のメンバーと多くの市民スタッフ。その代表的なイベントが「小樽雪あかりの路」。多くの外国人ボランティアで成り立っているのが現状。また、日本人スタッフの多くは50代～60代が中心であり、今後の運営に高齢化が課題となっている。</p> <p>そこで、次世代のリーダー候補となる高校生を育成し、この受講生が中心となって同世代の高校生をイベントに参加させるネットワークづくりを構築したい。</p> <p>●期待される効果は、高校生世代に小樽の歴史的景観の重要性が醸成されること。また今後、彼らが新たなイベントを創出する時も景観を活かした企画内容となることが期待される。</p>		
実 施 額	事業費	251,990円	助成額 247,490円
事 業 内 容	<p>「小樽雪あかりの路」を対象に、戦力となる高校生リーダーを育成する。 *会場は運河プラザ3番庫 <講座内容></p> <p>1日目</p> <p>①「小樽のまちのなりたちと景観」 講師：「おたる案内人」 阿部 英一 氏</p> <p>②「小樽雪あかりの路の誕生経緯」 講師：小樽雪あかりの路実行委員会 副実行委員長 山城栄太郎 氏</p> <p>③「小樽の景観を活かしたまちづくり運動を知る」 講師：NPO法人 歴史文化研究所 副代表理事 石井伸和 氏</p> <p>④「フィールドワーク（歴建と運河を学ぶ）」 講師：「おたる案内人」</p> <p>2日目</p> <p>①「ボランティア活動の魅力」 講師：簗谷和臣 氏</p> <p>②「小樽市総合博物館運河館見学」 講師：小樽市総合博物館 石川館長</p> <p>③「ワークショップ・・・イベントリーダーの役割」 ・・・グループ発表 サポート：「おたる案内人」</p>		

○内容が分かる「資料やチラシ等」を添付してください

月日	内容	想定事業効果 (参加人数等)	事業効果 (実績)
8月3日(土)	講座・フィールドワーク	30名	3名
8月4日(日)	講座・ワークショップ	30名	3名

◎事業評価について

1. 事業の目的の達成度

●市内の高校を訪問し、担当教師に事業内容を直接説明したが、結果としては参加者が少数だったこともあり、数字としては達成していない結果となった。要因としては①日程の問題（夏期講習や部活の合宿時期）・・・夏休みにこだわらず、9月でもよかった。（学校側もこれほど少ないとは思っていなかったようだ）②高校生には楽しい内容、得する内容も必要。（参加した高校生の意見）

*細かなリサーチ不足だった。

●現在、高校生が在学中にボランティア活動しているのは、学校の授業や部活動の延長上としての活動が多く、個人で自ら活動しているのは極めて少数とのこと。

2. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

●参加した各講師の感想

・・・今後の小樽観光において、この取組は大事であり、いかにたくさんの学生を参加させていくかが課題。参加者数を考えると、まちの将来を憂う年代と、受けて側の学生との意識の温度差があまりにも大きかったと言わざるを得ない。まちづくりについての若い世代とのギャップを検証できたので、次のステップはこの現状を踏まえて対策を考えたい。

●参加した学生の感想

・・・小樽のなりたちや、雪あかりの路のコンセプトがよく分かった。市民がつくった観光都市であることを初めて知った。自分は参加して良かったと思うが、高校生を呼び込むためには参加特典で引きつけなければ、なかなか集まらないのでは。

3. 今後の事業について

●事業については再検討する。

参加者数を増やすことを重点的に考え、高校生側の望む方向を取り入れていくと、本来の事業の目的とズレが生じること、また助成事業としてふさわしい内容となるのかを検討する。